

〔一〕 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。 解答番号は〔一〕の 1 から 13 までとする。

〈他人〉ではなく、〈他者〉と言うとき、私たちは決して了解済みではない何かに触れようとしている。日常の日本語としては少し耳なれないこの言葉の感触そのものに、ある未知の意味がこめられている。あたかも〈他者〉という単語そのものが、日本語に対して一つの問いを投げかけているようだ。

これまでたくさん書物が〈他者〉について問うてきた。人間における他者だけをでなく、人間の外の他者(神、自然、物質、動物……)についても問うてきた。他者は人を惹きつけ、あるいは恐怖させ、あるいは反発させる。他者はさまざまな(倫理的、美学的、政治的……)文脈で問われる。私がここで他者について問うことも、いくつかの次元にまたがることになるだろう。そして他者をめぐるいくつかの問題系のあいだに、離反する傾向を見ると同時に、共振し連結し合うチョウコウ^aをさがすだろう。他者が一体どのような問題でありうるのか、私の問題がなぜ他者という問題であるのか問いながら、少しずつ言葉の層を掘り進んでいくつもりだ。

言葉はいたい他者を迎えることができるだろうか。言葉はすみずみまで、同一のものに拘束されている。文法があり語彙があるという制限以外に、ある種の頻度によって初めて言葉は意味を運ぶことができる。^①その言葉が異質なものを迎えることができるのはどのようにしてだろうか。ほんとうは構文のレベルでも、語彙のレベルでも、言葉はいつでも頻度の揺らぎをもち、ある無意識のゾーンを含んでいる。誰一人として一つの言語を知りつくすことができない。言葉は、それ自体のなかに未知の語彙と、文法を逸脱する構文、オンライン^bの体系におさまらない異音をかかえている。だから言葉はつねに他者を排除しようとする傾向をもちながら、どうしても他者を内包せざるをえないのだ。

言葉はうんざりするほどの反復からなり、たえず反復を要求するのだが、反復のなかでかぎりなく襞を増殖してゆくので、必ず不規則で異様な例外を内包し、蓄積していくことになる。^②それなら一冊の書物は、たとえ一つの言語で書かれているにせよ、その言語自体の内包するあらゆる異質な要素を掘り起こし、^②世界も宇宙も、そのなかに収めることを夢想することができ

るだろう。

そのような書物はすでに存在するかもしれない。それに、あらゆる書物の重複をのぞいて、世界中のすべての本を一つの本に編集することができるなら、すべてはその書物に記されているはずだ。たとえこんな書物が存在して、もう新たに書くことが何もなくなくなったとしても、まだそれを読む楽しみだけは残っている。その書物を読み進んでいくと、そこには、もうすべてが書かれてしまっていることへの慨嘆と絶望さえも書き込まれている。その書物をいくら読み進んでも、実は世界についても、宇宙についても、たった一人の友人や虫や植物や石についてさえも、知りえなかったという慨嘆さえ含まれているかもしれない。その書物には、決して言葉を過信してはいけないとか、言葉にはそもそも意味がないとか書いてあり、知性の蒙昧や思いつき上がりについても、十分考えた結果が披瀝^{ひれき}してあるだろう。書物の有限性と、世界の無限性とのあいだには、決してうめることのできない亀裂がある、とも書いてあるだろう。すべてが書いてあるのだから、言葉と書物がなしうることへの過剰な期待や幻想への批判さえも、期待や幻想を呼びさます記述のかたわらに見つかることだろう。^③すべてが書かれていることに苦りきり、つむじを曲げ、解説不可能性で武装し、言葉のない宇宙の方にすべていく奇怪な言葉も含まれている。別につむじを曲げることもなく、武装するわけでもなく、ただ人間性の縁から静かに人間を見返すような視線を刻んだ言葉も含まれるだろう。そして、これらすべての言葉のかたわらに、いつのまにか膨大なものになった映像資料までがこの本に含まれることになる。幸か不幸か、この巨大な本を読みとおすことは誰にもできない。その無数のページは、紙やフィルムや電子メモリーのなかに眠っている。そのうちのほんの一部が、それをエツドク^②する頭脳のなかで一瞬よみがえるだけだ。無数のページが、それを読む無数の魂（モナド）のなかでよみがえり、しかもどれ一つ同じ仕方では抽出されることも、読まれることもない。

たとえばがこの書物に書かれていても、これを読む仕方は無限に異なり、無限に異なる読み方が、この書物そのものを増殖させる。この書物は有限なのか、無限なのか、と問うてみる。そうではなく、有限の無限、無限の有限というようなハイリ^①する状況を、この書物について想定しなくてはならない。この書物を読みながら、私はそれと対話する。その対話さえもすべて、そこにすでに書き込まれているのだろう。しかし書かれた言葉と、そのあと私の発する言葉が、一瞬の中断を経てつづ

き、また中斷して別の言葉につづくというようなことがなぜ可能なのか。私のいましがた発した言葉と、いま発しつつある言葉とのあいだに、すでに無限の淵が開いている。無限はいたるところにある。それが言葉を中絶すると同時にまた再開させる。この書物は、有限数のページと言葉のなかに、無限の宇宙を閉じ込めた。それなのに、一つ一つの文と文、単語と単語の裂け目から、無限がわきあがってくる。^④そこに他者が影をあらわす。はたして他者の書物は存在するのだろうか。それとも、他者は永遠に書物の外にあるのだろうか。

〈エグゾティスム〉は、他者に魅惑され、そのことを趣味とすることである。それは一つの〈ヘイスム〉だが、決して〈主義〉と訳せるほど体系だった傾向や信念を示してはいない。それはあくまでも趣味であり、知的感覚的な快楽や美学の次元にある異質なもののへの関心である。^⑤異質なものにどんなに惹かれても、それと一体化しようとはしない。エグゾティスムの対象は、しばしば一つではなく複数であり、エグゾティスムを実践する人の部屋には、異なる文化圏に属するさまざまな収集品が隣り合って並ぶ。その隣り合った道具や仮面や美術品そのものたちが、たがいにエグゾティスムを交換し合っているかのよう

に。
エグゾティスムの人は、観光者よりはるかに熱心に他者に接近し、他者に同化することさえこころみるが、同化しきつてしまふことは、この他者の魅惑をキョウジュすることにはならない。他者が魅惑するのは、それが異質だからである。しかし他者を異質と感ずることは、同時にこの他者を拒否することではないか。どんなに冷酷な植民地支配者や、植民地を搾取する商人たちさえも、ほんの少しのエグゾティスムをもっていて、それが支配や搾取を妨げないかぎり、他者の伝統に介入することはなく、むしろ観客になって楽しんだりもする。異なる民族や文化や集団が出会うとき、さまざまな形で強制的な同化がおこなわれ、それに付随してさまざまな衝突や反作用が起きる。一つの体系がそのまま他者に強制されることもあれば、いくらかの変形や¹¹を経て強いられることもある。あからさまな植民地化もなく、支配や強制が及んでいるわけでもないのに、他者の方がそのような適応を主体的におしすすめる場合もある（日本の欧化のように）。そして、ことあるごとに、そのような強制や、適応や、浸透に対して、みずからの〈アイデンティティ〉を守ろうとする反作用が起きる。

「アイデンティティ」という概念は、それ自体いつも

12

を含んでいる。「アイデンティティを守る」というような

発想があつて、初めてアイデンティティが発生するのだから、このような言い方自体が同語反復を含んでいるのだ。「アイデンティティ」は、人がそれを守ろうとするとき、初めて成立する。そのとき同時に、それが過去にすでに決定的に存在したかのような錯覚が生みだされる。「アイデンティティ」は、自己と他者のあいだに突然引かれる境界とともに発生するのであり、それはつまり、自己と、対象化されたもう一つの自己とのあいだに亀裂・距離が発生することである。それはいわば自己とのあいだに発生した「エグゼティスム」なのである。

⑥たとえばわれわれが、タヒチに惹かれたり、インドに惹かれたりするときのエグゼティスムは、厳しい倫理に裏打ちされるべき他者・外部の思想とは何の関係もないと指摘されるかもしれない。他者・外部の思想とは、ナチズムをもたらすような人間のなかの不気味な異質性にかかわり、決して通常の理性によつてはとらえられない不可知の広がりにもけられるのであつて、趣味や旅行におけるエグゼティスムとは何の関係もないというふうに。エグゼティスムは、あくまで自己本位に、他者との差異を趣味や快楽として経験しようとする。けれども、現代史の臨界点にあらわれた他者・外部という問題を、エグゼティスムにおける他者との出会いと、その趣味や快楽や幻想の場面に連続させて考えてみるなら、どんな地平が開けてくるのだろうか。

（宇野邦一『他者論序説』による。ただし本文中の小見出しを省略した）

問一 二重傍線部①～⑤の漢字と同じ漢字を含むものを、次の各項の中からそれぞれ選び、その番号をマークせよ。

1

- ① 1 来客をコウグウする 2 大コウカイ時代

- 3 コウリツ的な方法 4 コウホ者の名簿

2

- ② 1 インリツが整っている 2 インシヨク禁止

- 3 イントン生活を送る 4 事件のインガ関係

3

- ③ 1 キョウエツ至極 2 作品をコウエツする

- 3 タクエツした技術 4 国王にハイエツする

4

- ④ 1 有名なハイユウ 2 優れた人材のハイシユツ

- 3 行事をハイシする 4 ハイゴに人が立つ

5

- ⑤ 1 セイキョウ分離の原則 2 キョウラク的な性格

- 3 声がハンキョウする 4 刃物でキョウハクされる

問二 傍線部①の説明として、最も適切なものを次の中から選び、その番号をマークせよ。

6

- 1 意味の同一性を担保するところに言葉の働きがあるにもかかわらず、言葉が他者をあらわすことができるのはなぜか

- 2 言葉の意味は無意識のゾーンでつねに揺らぐもののはずだが、それでも異質な他者を排除する傾向にあるのはなぜか

- 3 一つの言語を知り尽くし、極めることができる人間などいない以上、他者をあらわす言葉もありえないのではないか

- 4 一つの言語のなかには未知の語彙や様々な構文が潜んでいるため、それを習得すれば他者をあらわせるのではないか

問三 傍線部②の説明として、最も適切なものを次の中から選び、その番号をマークせよ。

7

- 1 あらゆる書物には重複する箇所があり、それらの蓄積によって宇宙を内包することができる
- 2 世界中のすべての本を一冊に編集することができれば、そこには宇宙が内包されている
- 3 一つの言語に特化した本は、それにより逆に宇宙を内包しているとみなすことが可能である
- 4 特別な一冊とも言えないただの本ですら、宇宙を内包していると想像することが可能である

問四 傍線部③の説明として、最も適切なものを次の中から選び、その番号をマークせよ。

8

- 1 言語では説明することのできない宇宙的な状況に対する怒りを表す言葉も、すでにそこには含まれている
- 2 言葉や書物がなしうることに対する過剰な期待を呼び覚ますための言葉も、すでにそこには含まれている
- 3 未知のものを探ろうとする可能性が奪われたことへの慨嘆と絶望の言葉も、すでにそこには含まれている
- 4 そこに書かれているすべてから去り、意味の欠如へと向かっていく言葉も、すでにそこには含まれている

問五 傍線部④の説明として、最も適切なものを次の中から選び、その番号をマークせよ。

9

- 1 有限数のページと無限の宇宙のなかに、他者の真実は潜んでいる
- 2 言葉と言葉の間にこそ、他者の存在はつねにほめかされている
- 3 中断された対話を再開させることが、他者の真理を明らかにする
- 4 単語と単語の裂け目を閉じると、他者の本質はわきあがってくる

問六 傍線部⑤のようという理由として、最も適切なものを次の中から選び、その番号をマークせよ。

10

- 1 異質なものと一体化する行為には、根本的な恐怖と違和感が含まれているから
- 2 自己のアイデンティティを損なうまで異質なものにこだわる人間はいないから
- 3 一体化してしまった時点でそれは異質なものではなくなり、魅力が失われるから
- 4 エグゾティスムには〈主義〉と呼べるほどの体系的な傾向は示されていないから

問七 空欄 11 に入る言葉として、最も適切なものを次の中から選び、その番号をマークせよ。

11

- 1 巻き戻し
- 2 焼直し
- 3 折り返し
- 4 見通し

問八 空欄 12 に入る言葉として、最も適切なものを次の中から選び、その番号をマークせよ。

12

- 1 ファクトと普遍
- 2 リアリティと普遍
- 3 フィクションと倒錯
- 4 エビデンスと倒錯

問九 傍線部⑥のようという理由として、最も適切なものを次の中から選び、その番号をマークせよ。

13

- 1 趣味や快楽としてのエグゾティスムを、あえて他者・外部の思想と連続させてみる意義が見過こされているから
- 2 他者・外部の思想とは、人間のなかの不気味な異質性にかかわるナチズムを通常より強く批判することであるから
- 3 他者を支配や搾取するのではなく、対等の立場から出会いを生み出そうとする態度がエグゾティスムであるから
- 4 通常の理性によってはとらえられない不可知の広がり認識することで、他者との差異を知ることができるから

〔二〕 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。 解答番号は〔二〕の 1 から 8 までとする。

千代能、尼僧、無外また無著と号し、初名は千代野、陸奥の大守泰盛むすめの女、既※けいに笄えちのかみして越後守金沢実時に嫁す。夫を失つて後仏門に歸し、仏光を拝請はいぎやうして祝髪納戒①す。京師によりて、仏光その他の諸知識に謁す。※資寿精舎を構へて専一②に坐究作工す。③一日縁に触れて忽然大悟し和歌を 4 て曰ふ。

④ 千代能がいただく桶の底ぬけて ⑤ 水たまらねば月も宿らず

と光に謁して所悟を呈す。後、光、法衣並びに自賛※の頂相を付す。上杉氏二階堂氏等、景愛寺を京に建て、請じて第二代と為す。⑦時に日面和尚と号す。その戴く桶の底ぬけて水流れ大悟する処ところ好画題として描かる。

（『東洋画題綜覧』による）

※笄して……かんざしを挿して髪をまとめることをいい、女性が結婚する用意を整えたことの意味

※資寿精舎……京都の相国寺の開山堂、後に崇寿院と改称

※頂相……禅宗などで祖師や僧の肖像画を指す

問一 傍線部①の意味として、最も適切なものを次の中から選び、その番号をマークせよ。

1

- 1 髪を束ねて世俗を生きる
- 2 祝言をあげて夫婦となる
- 3 髪飾りを寺に奉納する
- 4 剃髪して仏門に入る

問二 傍線部②の説明として、最も適切なものを次の中から選び、その番号をマークせよ。

2

- 1 椅子を研究し工作した
- 2 立ち居振る舞いを磨いた
- 3 多くの専門書を著した
- 4 座禅と仏道研究に励んだ

問三 傍線部③の意味として、最も適切なものを次の中から選び、その番号をマークせよ。

3

- 1 ある日
- 2 一日中
- 3 月初めに
- 4 突然に

問四 空欄 4 に入る言葉として、最も適切なものを次の中から選び、その番号をマークせよ。

4

- 1 介し
- 2 詠じ
- 3 嘆じ
- 4 講じ

問五 傍線部④の説明として、最も適切なものを次の中から選び、その番号をマークせよ。

5

- 1 千代能が水を汲んで運んでいた桶の底がぬけてしまった
- 2 千代能が高僧からもらった桶の底がぬけてしまった
- 3 千代能が入浴しているときに風呂桶の底がぬけてしまった
- 4 千代能の食事をのせていた桶の底がぬけてしまった

問六 傍線部⑤の説明として、最も適切なものを次の中から選び、その番号をマークせよ。

6

- 1 「桶」という心が十分に強くなかったので、底がぬけて「水」がなくなり修行の道から外れてしまった
- 2 仏道の修行という「水」を十分にためなければ、悟りにつながる「月」に到ることはできない
- 3 煩惱がたまる心という「水」をおさめる「桶」の底がなくなれば、無心の悟りの境地が訪れる
- 4 それまで悟りの境地だと思われていた「月」の光もまた、「桶」の水とともに残念ながら見失われた

問七 傍線部⑥の説明として、最も適切なものを次の中から選び、その番号をマークせよ。

7

- 1 自らの悟りを自作の和歌にこめて示した
- 2 隠しきれない悟りが和歌によって露わになった
- 3 悟りを得て外見の印象が大きく変わった
- 4 悟りを得た場所がここであると示した

8

問八 傍線部⑦の意味として、最も適切なものを次の中から選び、その番号をマークせよ。

1 折にふれて

2 たまたま

3 時宜をえて

4 没後に

〔三〕 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。解答番号は〔三〕の

1

から

8

までとする。

あえて図式化してみる。

① 対面は西洋的である。それは西洋人の身の持しかたや対人関係におけるふるまいの作法を根本において規定している。握手も、抱擁も、挨拶のキスも、対面を前提とした所作である。〈見つめ合い〉の暴力性も、その馴致ないし反転としての〈見つめ合い〉の美学やドラマツルギーも、西洋文化にはお馴染のトポスである。この対面の重要性は、西洋人が〈個〉としてあるということ、彼らの各々が〈個〉として屹立しているということと深く関係している。〈個〉のないところには十全な意味での対面もないからである。こうした〈個〉のありようが近代後期以降、さまざまなところで行き詰まりを見せているということも事実である。(中略)

これにたいして、横目、流し目は日本的である。日本文化は「横並びの文化」だといえる。対面して (face to face) ではなく、横に並んで (side by side)、同じ方向を眺める。クラブで踊る者たちや、カウンターで飯を食う人々を見よ。この国にはフランス料理ですらカウンターで食わせるところがある。畢竟、他者を見る目は横目、流し目になる。そこには対面がないだけでなく、目立った対立もない。面と向かった衝突を避けるというのが、この国では昔から美德とされる。(中略)

② 日本語では一・二人称の代名詞がしばしば省略されるが、その理由のひとつもそこにある。「わたし」も「あなた」も過剰、剰なのである。過剰に直接的なのだ(「わたし」の使用は自己主張と、「あなた」の使用は不遜と受け取られかねない)。二人称代名詞に代えて「鈴木さん」や「先生」や「社長」を用いるのは、この過剰な対面を間接化するため、「迂回」するためである(「わたし」の代りにしばしば用いられる「自分」なども一人称とはいいがたい)。

I 田中教授「先生はいつ帰国されるのですか？」

ブラウン教授「先生とは私のことですか？」

田中教授「ええ、先生のことです」

ここで帰国するのはもちろんブラウン教授だが、「帰国される」の意味上の主語はむしろ田中教授である。発話相手の帰国するという行為を謹んで受ける、発話主体である。^③主語は両者のあいだにあると言ってもいいかもしれない。「される」が「する」の受身であると同時に尊敬語でもあるという日本語の不思議の淵源はここにある。

一方、自分のことをファースト・ネームで呼ぶ女の子に腹立たしさを覚えるのは、これとは逆で、自分を引き受けない人間の「甘え」をそこに看取るからだ。大げさにいえば、私たちのなかの「西洋化」された部分がそれを許さないのである（女性蔑視も交じっているかもしれない）。

Ⅱ りな「先生、すいません。りな、宿題忘れました」

角田先生「自分のことりなって言うな」

りな「すいません。やっぱりなめですか？」

角田先生「先生はそういうの嫌いだ」

日本人の各々が確たる（個）^④として自立していないということは、日本人の「私」が十分に社会化された「私」ではないということと同じである（ここで小林秀雄が日本の私小説作家に欠けているものとして語った有名な「社会化された「私」を思い出してもいいかもしれない」。^⑤木村敏は、（中略）対人恐怖症をめぐる議論のなかで、私的な「私」と公共的な「私」というタームでこの問題を考えている。木村によれば、西洋人においては、私的な「私」と公共的な「私」が、比較的安定した、相互補完的な関係にある。この両義性が個人の意識の面でそれほど大きな問題を引き起こさないのは、そこでの私的な「私」が「ほとんど完全に」A的な個別者としての「私」だからである。

これにたいして、日本人においては、「純粹に私的な「私」と公共的な「私」の相補性の構造が、欧米人に比して相対的に脆弱である」。そしてそれは、そもそも私的な「私」が B 的だからである。この相補関係の脆弱さ、不安定さが、まさに〈私〉と〈公〉の中間に位置する「中途半端な顔見知り」との接触を機に、対人恐怖症として現れるのだと木村は言う。

日本人では、私的な「私」がすでに B 的な身内意識によって根底から侵食され、この身内意識そのものが「……」複雑な入れ子構造のために絶えずゆれ動いているので、個の主体性に裏打ちされた単独者としての「私」の意識も、各自の「私」のあいだで取り結ばれる公共的な間主観性／間主体性も、十分に発展しなかった。「私」は自分自身を意識するたびに、つねに変動する私的内面と公共的外面との板挟みになって、両者の関係がもつとも不安定で相剋のもつとも厳しい「中間的な顔見知り」という対人状況で、対人恐怖症という独特の神経症を生み出すことになった。

ちなみにこの「私的内面と公共的外面」を媒介するのが顔にほかならない。両者のあいだの齟齬が顔に表れるのだとも言える。それとはかく、日本人は「身内」や「仲間うち」といった言葉に示されるような「私的な B 集団を形成しやすい」という指摘は示唆に 8。

（大浦康介『対面的』による。ただし本文の一部を省略した）

問一 傍線部①の説明として、最も適切なものを次の中から選び、その番号をマークせよ。

1

- 1 西洋では目立った対立や衝突を避けるための作法が数多く存在しているということ
- 2 西洋では握手や抱擁の代わりにまずは対面が重要な役割を果たしているということ
- 3 西洋では他人の私情に配慮しない〈見つめ合い〉の所作が暴力性をもつということ
- 4 西洋では〈個〉が確立された「私」同士のあいだで関係が取り結ばれるということ

問二 傍線部②の理由として、最も適切なものを次の中から選び、その番号をマークせよ。

2

- 1 一人称や二人称の抱える間接性を迂回するため
- 2 氏名や肩書きのもつ明確な指示性を優先するため
- 3 各々が確たる〈個〉として自立していないため
- 4 私的な「私」と公共的な「私」が相補であるため

問三 会話文IおよびIIの説明として、あてはまらないものを、次の中から一つを選び、その番号をマークせよ。

3

- 1 Iは、社会的に対等な間柄であっても相手に気に入られるために過剰な尊敬語を使う人間の慎重さを描く
- 2 Iは、「先生とは私のことですか?」との質問にも「あなたのことです」と答えない日本人の婉曲性を描く
- 3 IIは、自分自身を下の名前で呼ぶことを批判する者もまた一人称の使用を回避している滑稽さを描く
- 4 IIは、明確な〈個〉としての自分を引き受けずに下の名前で自分を呼ぶ所作に見え隠れする甘えを描く

問四 傍線部③のようという理由として、あてはまらないものを、次の中から一つ選び、その番号をマークせよ。

4

- 1 相手の行為とそれを受け入れる自分とが同時に表現されているから
- 2 発話における形式上の主語と意味上の主語が異なっているから
- 3 「される」が「する」の受身形と尊敬語の両義性を含んでいるから
- 4 面と向かって対話する際に生まれた空気が場を差配するから

問五 傍線部④の作品として、最も適切なものを次の中から選び、その番号をマークせよ。

5

- 1 「墮落論」
- 2 「モオツァルト」
- 3 「蟹工船」
- 4 「小説神髓」

問六 傍線部⑤の説明として、最も適切なものを次の中から選び、その番号をマークせよ。

6

- 1 日本人の場合、私的な「私」と公共的な「私」との関係があいまいであるため、〈私〉と〈公〉の中間に位置するような中途半端な顔見知りとの対人状況が神経症をもたらす
- 2 私的な「私」と公共的な「私」とが相互補完的な関係を結ぶ日本人の場合、私的内面と公共的外面とで板挟みになった中間的な顔見知りとの接触を機に独自の神経症が現れる
- 3 日本人の場合、自立した「私」同士のあいだで取り結ばれる公共的な間主体性に支えられた集団が発達しているため、中間的な顔見知りを前にすると対人恐怖症が生まれる
- 4 身内や仲間うちの意識が形成されにくい日本人の場合、私的内面と公共的外面が複雑な入れ子構造をなすため、その齟齬が顔に表れることによって独特な対人恐怖症に陥る

問七 空欄

A

B

(B

は三箇所ある) に入る言葉の組み合わせとして、最も適切なものを次の中から

選び、その番号をマークせよ。

7

1 A 単数一人称

B 複数一人称

2 A 複数一人称

B 単数一人称

3 A 単数三人称

B 複数三人称

4 A 複数三人称

B 単数三人称

問八 空欄

8

に入る言葉として、最も適切なものを次の中から選び、その番号をマークせよ。

1 疎い

2 与る

3 富む

4 利く

(以下 余 白)